



飼育レポート1

ゾウ舎20年目のリフォーム

飼育展示担当 山上 昇

アフリカゾウのだいすけ(♂)と花子(♀)は、早いもので2頭とも推定20歳を過ぎ、体もずいぶん大きくなりました。平成2年9月30日に推定1歳で当園に仲間入りした当時は、2頭とも体重約400kgでした。20年後の現在、だいすけが約5トン、花子が約3.5トン(いずれも推定体重)に成長しました。体だけではなく、頭も賢くなり、いろいろな物に興味を持ったり、警戒心を強くしたりと、日々たくさんの変化があります。

今年、ゾウが暮らす獣舎の一部改修工事を行いました。飼育を開始してから今日に至るまで、直接飼育(※1)に適した獣舎の構造のまま、大きくなったゾウを準間接飼育(※2)している現在、現状のまま飼育管理を行うには危険度が増し、限界を迎えていました。

そこで、ゾウによる人身事故を防ぎ、ゾウと担当者がより安全に、かつ双方の信頼関係を今まで以上に深めて飼

育管理を続けるために、ゾウ舎の寝部屋の格子幅を狭くするとともに、ゾウの体のケアを可能な限り出来るように寝部屋の一部をリフォームしたのです。改修工事にとまない、今後、ゾウを新たな飼育環境に慣らすとともに、飼育方法に関しても、一部新しい調教項目を加えながら日々の飼育管理をしていかなければなりません。また、ゾウだけでなく、担当者もゾウの飼育管理をもう一度勉強し合い、飼育技術の向上につなげ、今まで以上にゾウとの深い信頼関係を築きあげられるよう努力していきたいと思ひます。

なお、ゾウを室内展示している場合、多少見えにくくなりましたが、こうしたことをご理解のうえ、ご覧いただきたいと思ひます。

(※1)直接飼育…動物と飼育者が同じ空間に入って飼育する方法。
(※2)準間接飼育…動物と飼育者が同じ空間に入らないが、動物と接触が可能な状況で飼育する方法。



大きく成長した花子(左)とだいすけ

エサを食べる様子が見られると人気の「まんまタイム」の様子



子供の頃の花子(平成3年)



リフォーム前の寝部屋。格子間隔が広い状態



リフォーム後の寝部屋。格子を追加し、幅が狭くなりました

飼育レポート2

新人さん、いらっしゃ〜い!

左がサツキ、右がマツ



仲良く「おしりあい」

飼育展示担当 小松 泰子

2009年12月4日、長崎バイオパークから新しい仲間がやってきました。マツ(♀)とサツキ(♀)という、まだまだ小さな2頭のカピバラです。当園には、うみ(♀)とレン(♂)しかいなかったため、2頭が来たことで一気に賑やかになりました。

夕方到着した2頭は、少し疲れた様子でしたが、輸送箱の扉を開けるとすぐに出てきました。寝室中を慎重に匂いかきながら歩き回っていたかと思うと、同じ仲間の匂いがすることに気づき、お互い柵越しに鼻を近づけました。カピバラの挨拶です。そして匂いを確認すると、そわそわと落ち着きがなくなりました。元々群れで生活する動物で、長崎でも一緒にいたので、出来れば早く一緒にさせ

てあげたかったのですが、カピバラは大きな前歯(門歯)という武器を持っています。その歯で一撃をくらっただけでもとても危険です。長旅のストレスや新しい環境の変化によって、通常では考えられない行動をとることもあるため、その日は2頭を分けておくことにしました。その後、日中の同居訓練ではサツキがマツの後ろを着いて歩く姿が見られました。2頭の様子を観察していると、どうやらサツキはマツの事を頼りにしているようです。今では夜間も同居させています。時々こっそり覗きに行くと、2頭で寄り添って寝ている姿を見せてくれるほどです。

これから2頭がすくすくと成長して、いずれお母さんとなる日が今から楽しみです。



並んでエサを食べる二頭

飼育日誌から(平成21年9月~平成22年1月)

飼育職員が日々記録している飼育日誌の一部を抜粋してご紹介します。

- 9/13 ●ミニブタ トン吉♂ トン平♂と少しけんかをし、左耳にケガ。イソジン消毒し、様子を見る。ブラッシング。
- 9/21 ●ニホンリス ♀個体がキーパーの肩に乗り、手差しでクルミを受け取る。クルミを受け取るとすぐに巣箱に持ち帰り、貯食する。
- 9/29 ●サンキョクキムネオオハシ オオハシ用赤外線ライト設置。午前中点灯。
- 10/3 ●アフリカタテガミヤマアラシ ワヤ♀とペロ♂(ワヤの子) 食欲良。外に出したとき、少しの間だったが、ワヤから離れて行動していることがあった。
- 10/6 ●リス 全個とも体背中のあたりが冬毛に変化している。
- 10/10 ●キョン ♀個体、展示場の落ち葉よく食べる。
- 10/12 ●エミュー 展示場にミズを多く含んだ土を入れる。土から出てきたミズをつついて採食していた。
- 10/17 ●テン テン吉♂ 額に白い毛が混じってきた。
- 10/18 ●チンパンジー ノリコ♀ 室内に下痢便あり。ノリコだけ野菜中心の給餌をする。
- 10/28 ●リス とても活発。毛は完全に冬毛に生え変わっており、全身の毛がふっくらとしている。
●ゾウ ダイスケ♂ 後肢爪上部のササくれ部分がはみ出てきたためナイフで切除。
- 10/29 ●テン テン吉♂ 額の模様が消え、顔全体が白っぽくなる。(冬毛化)
- 11/13 ●ポアコンストリクター 寒さで日中も温度が上がらないため、終日床ヒーターをつける。
- 11/21 ●ポニー舎 寒さ対策として寝室のひとつに農業用ビニールシートを張り、保温しやすいように改装。
- 11/25 ●ユキヒョウ ライサ♀ 左眼が腫れていたため、獣医師へ報告。抗生剤を吹き矢で筋注。非展示にする。
- 11/26 ●ユキヒョウ ライサ♀ 目の状態も動きも良い。本日終日室内。
- 11/30 ●ラマ 採食良い。便の量も多く正常。夕方ペレットを持って行くと、2頭とも跳ね回って遊ぶ。
- 12/4 ●ミーアキャット 長崎バイオパークより2頭(ナーガ♀、サキ♀)導入。
●カピバラ 長崎バイオパークより2頭(マツ♀、サツキ♀)導入。
●水鳥 寒くなったため、全羽越冬舎へ収容。

- 12/7 ●ミーアキャット ナーガ♀とサキ♀ 元気・食欲あり、便に異常なし。
●カピバラ マツ♀とサツキ♀ 採食・排便良好。慣れてきた様子。本日より少しずつ同居訓練開始。11:00より1時間同居。特に問題なし。
- 12/11 ●アカコングウインコ ♀が♀の方にお尻を向けて、尾を振っていたが、♀はあまり関心を見せていなかった。
- 12/23 ●ミニブタ トン平♂とトン吉♂ 元気・食欲旺盛。午後30分程、獣舎内を散歩させる。トン吉はいたずらばかりしていた。
- 12/27 ●ノドジロオオキザル 午後、生クルミを2個入れてみる。1個は床に落ち衝撃で割れた。中身を知ったせいか、残りのもう1個を壁等に打ちつけたり、擦ってみたり、両手の中で転がしてみたり、噛ったり色々試し、40分後にクルミに穴を開け中身を食べた。
- 12/31 ●ミーアキャット ナーガ♀とサキ♀ 風の音に警戒している。
- 1/8 ●アメリカビーバー マリオ♂とナツ♂ お互いに毛繕いしていた。
- 1/11 ●ゾウ 13:10まで放飼。放飼中は♂♀とも盛んに泥浴びしている。

類	種数	点数
哺乳類	52種類	272点
鳥類	44種類	165点
は虫類	11種類	29点
両生類	2種類	8点
魚類	4種類	29点
合計	113種類	503点

飼育動物数

[平成22年1月末現在]